

令和6年度 学校評価総括表（林小学校）

1 学校教育目標 人権を尊重し、心身ともに健康で、豊かな人間性と確かな学力を備えた、たくましい児童を育成する。

2 本年度の努力目標

(1)すべての教育活動の場面で、「学習意欲」の向上と「自ら考える力」「関わる力」を育成するため、全教職員で意思統一を図り、指導方法の工夫改善を進める。

すべての教育活動を通して、教職員の授業力の向上を図る。

(2)道徳性や社会性を高めるため、体験活動や道徳教育・特別活動を充実させる。

(3)運動習慣の確立と望ましい生活習慣の形成を図るため、学校体育の指導法を見直し、保護者と連携して食育・健康・安全教育を充実させる。

3 総括表 ※ 評価は5段階（S:大変よくできている A:よくできている B:できている C:努力がいる D:大変努力がいる）

領域	評価項目	評価の観点	自 己 評 価		次年度への改善点等	学校関係者評価 (学校運営 協議委員)
			考 察 (成 果 と 課 題)	評 価		
校 経 営	開かれた学校	保護者や地域住民への情報発信・連携	「学校は、保護者や地域の方に必要な情報を分かりやすく伝えているか」という設問に対して、約94%の保護者が「とてもそう思う」「そう思う」と回答している。教職員の評価でも100%が肯定的に捉えている。よりよい学校経営を行っていく上で、教職員の共通理解と保護者への周知は欠かせないものである。今年度もほぼ毎日学校ホームページを更新することができた。また、毎月、学校だより、学年だよりを発行し、学校行事や児童の活動の様子などの情報発信に継続的に取り組んでいる。「学校は、様々な取組や行事を通して保護者や地域と連携し、子どもの教育にあたっている」に95%の保護者が肯定的に回答している。	A	・保護者には、継続して学校だよりやHP等で具体的な取組をお知らせし、誰にでも分かりやすい表現に努める。また、保護者へHPの閲覧を促す。 ・縦割り班活動、総合・生活科、人権教育等において、積極的にゲストティーチャーを招き、地域人材を生かした教育活動を実践する。	A
	学級経営	一人一人を主人公にする学級経営の実践	96%の児童が「学校がとても楽しい」「学校が楽しい」と肯定的に回答している。昨年より3%増えた。「学校があまり楽しくない」(7名)と回答している児童がいる。「学校が全く楽しくない」と回答した児童は、0名で、どちらも昨年に比べて減少している。また、90%の児童が「先生は、あなたのことを分かっている」と回答している。「学校は、子どもや保護者の相談に積極的に対応しているか」には、保護者の91%が肯定的に捉えている。今一度各学級担任が自らの学級経営を振り返り、これまで以上に児童の気持ちに寄り添い、仲間づくりを中心に据えた学級経営を行い、保護者との連携を深めていく。	A	・今後も児童理解の時間を設け、全教職員で共通理解を図り、児童の指導・支援に生かしていく。 ・面談や電話連絡、連絡帳等を通して、保護者との連絡を密にし、ともに児童の成長を促す。 ・「チーム林」として校内支援体制を構築し、ケース会議を適宜行い、関係機関との連携を図る。	A
	教職員の資質向上	授業力の向上 組織力	95%の児童が「授業で教えてもらったことが分かる」と答えている。保護者の93%が「学校は分かる授業をするために工夫している」と回答している。教職員は日々教材研究に努め、わかる授業を実践している。「自分から進んで発表できている」と回答した児童は、68%であった。「主体的・対話的・深い学び」となる授業に向けて授業改善に取り組む必要がある。今後も校内研修を中心に教職員の指導力向上と授業改善に努めていく。 組織力については、教職員の100%が「教職員がよくまとまり、それぞれが役割を果たしている」と回答している。今後も教職員が一丸となって、児童の指導にあたりたい。	A	・校内研修の充実を図り、教職員一人一人の授業改善や指導力向上に取り組む。 ・ミドルリーダーの育成と若手教員の授業力向上を図るため、メンター制度の充実を図る。 ・今後も、何でも相談できる風通しの良い職員関係の構築を図り、全教職員で児童支援を行う。	A
	環境整備	安全できれいな教育環境の整備	児童の89%が「時間いっぱい一生懸命そうじができています」と回答している。昨年度より、4%減少した。これは、本年度日課表を改訂した際に、掃除時間開始の予鈴を設定しておらず、掃除時間を十分確保できなかったことが要因であると考える。日課表の見直しを図る。96%の保護者が「学校はよく清掃され、掲示や花壇などきれいな環境である」と回答している。地域の方も落ち葉を掃いてくださったり、体育館や学校周辺の環境整備に配慮してくださったりしている。今後も地域の方や保護者の協力も得ながら安全で整備された学校づくりを継続したい。	B	・清掃時間の取組について、教職員で見直しを図り、日課表や放送の仕方を工夫して、清掃時間の充実に努める。 ・委員会活動(保健委員会・環境委員会等)を中心に、計画を立て、全校児童で活動できる取組を取り入れる。	A
教 育	学力向上	基礎・基本の定着 学習意欲	児童アンケートでは「進んで読書している」がR4年度の63%からR5年度では85%と大幅にポイントが増え、今年度は83%とポイントを維持しており、「読書タイム」や「本借りデー」を取り入れ、読書活動の充実を図った成果が表れ、継続できていると感じている。「家庭で読書を自分から進んでしている」と答えた保護者は、昨年度51%に比べ、今年度は、83%大幅にポイントが増えた。 「家庭学習に進んで取り組んでいる」と回答した児童は84%であるが、保護者は64%で、20%の開きが見られた。引き続き、家庭との連携を図りたい。	B	・朝の読書時間を確保しつつ、ペア読書や読書まつりなどを実施し、マンネリ化を防ぐ。 ・家庭読書の充実を図るために、週末読書や親子読書を取り入れ、家庭との連携を図る。 ・本校の実態に応じた「学力向上実行プラン」を設定し、それに基づく具体的な実践を全教職員で共通理解し行う。	B
	心の教育(人権教育)	人権尊重の精神の育成 いじめ防止	98%の児童が「友達を大切に、仲良くできている」と答えている。昨年度より6%増加している。保護者アンケートでは「学校はいじめや差別のない仲間づくりに努めている」の回答が93%、「学校は、命の大切さや一人一人を大切に育てる教育をしている」と回答したのは93%と人権尊重の心情を養う教育を児童の実態に応じて取り組み、保護者への啓発にも継続的に取り組んできた成果が表れている。特に、参観日での人権学習の公開や「命の授業」への取組、日々の実践や児童の意見を学年だより等で発信したことが成果となって表れている。	A	・「林小かがやき委員会」の活動を活性化し、継続的に活動することで、学校全体で人権意識の高揚や仲間づくりを進め、学校での取組を保護者や地域へ発信し、啓発につなげる。 ・校内研修の充実を図り、教職員の人権教育に関する知識・技能の向上に努める。	A
	生徒指導	遵法精神の育成	さまりの遵守や善悪の判断については、児童の90%、保護者の97%が肯定的に評価しており、保護者のポイントが児童より上回っている。教職員アンケート「子どもに善悪の判断をつけさせ、さまりを守れる指導ができています」には、100%の教職員が「できている」と回答している。今後も道徳の学習を中心に、学校の教育活動全体を通して、さまりの遵守、善悪の判断等についての指導を徹底していく。また、学校だよりや学級だより等を通じ保護者との共通理解も深めていく。	A	・育成センターや警察などの関係機関との連携を深め、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材にも引き続き支援をお願いする。 ・朝会等で学校のルールの周知徹底を行う。	A
活 動	健康・体力づくり	基本的な生活習慣の確立 運動習慣の定着	「早寝早起き」については「できている」と回答した児童は今年度79%で毎年ポイントは増加しているが、十分とは言えない。「毎朝ご飯を食べている」児童は77%で、保護者は87%で相違がある。朝ご飯を準備していても時間が足りず十分食べられなかったり、子どもだけで食べて保護者が確認していなかったりすると考えられる。「進んで運動している」と回答した児童は81%、保護者は69%で相違が見られる。学校では、運動できても家庭では、ゲームをしたり動画を見たりして過ごし、運動しようとはしない児童が多く見られる。全国的にも肥満傾向児童の増加が大きな問題となっており、本校も例外ではない。体育の授業だけでなく縦割り班活動を朝の活動や休み時間に取り入れ、児童の運動する時間を確保し、運動習慣の定着とともに体力向上に努めていきたい。	B	・生活習慣きりチェックシートを活用し、自分の健康課題を自覚し、改善策を考え実行するとともに、家庭と連携した取り組みを継続する。 ・縦割り班活動を朝の活動や休み時間に取り入れ、児童の運動習慣確立に努める。また水泳カード・なわとびカード等を効果的に活用する。 ・引き続き徒歩通学、外遊びを奨励する。	B
	安全教育	危機に対処する能力の育成	「災害や不審者があらわれたときに自分の命を守る方法を知っている」と回答した児童は97%と昨年より5%増えている。保護者アンケートの「学校は、災害や不審者などから自分の命を守る方法を子どもに伝えているか」には90%の保護者の方が「そう思う」と肯定的に答えている。今年度は地震・火災訓練や防犯教室などを計画的に行うことができた。参観授業後の引き渡し訓練の前に防災教育の出前授業を実施したことで保護者への啓発につながったと考える。	B	・今後も関係諸機関と連携を深め、協力を得ながら多様な訓練を実施し、取組を保護者に伝えたり、参観日に実施したりして啓発に努める。	B
	情報モラル教育	情報社会の倫理安全への知恵	「あなた(お子さん)は、さまりを守り、相手の気持ちを考えてタブレットやスマホを使ったり、ゲームをしたりできているか」に児童は86%ができていますと回答し、保護者は82%がそう思うと答えている。「学校は、さまりを守ってタブレットなどを気をつけて使うように子どもに伝えているか」には、90%の保護者が「とてもそう思う」「そう思う」と答えている。参観日での情報モラル教育の公開授業が保護者への啓発につながっていると考える。しかし、「あなたは、さまりを守り、相手の気持ちを考えてタブレットやスマホを使ったり、ゲームをしたりできているか」に3%(5名)の児童がまったくできていないと答えている。学校での情報モラル教育の徹底と保護者への啓発は引き続き行っていく。	B	・発達段階に応じた情報モラル教育を計画的に進める。 ・情報モラル教育の公開授業、スマホ・ケータイ安全教室や講師による出前授業の実施を通して、児童の倫理意識の改善や保護者の参加を促して、啓発につなげていく。 ・ICT支援員を活用し、児童の実態に合わせた情報教育に取り組む。	B

4 学校運営協議委員さんからのご意見

- ・授業力向上について、児童の発表・発言を促す機会を増やし、自信につなげてほしい。「失敗から学ぶべきことがある」ことから、体験的な活動を積極的に取り入れ、失敗したときの対応力やたくましさも身につけてほしい。
- ・学力向上について、読書活動の充実を図る取組の効果が児童の姿として表れており、評価できる。
- ・学力向上について、基礎的基本的な力の定着とともに、発信力を身につけてほしい。
- ・健康・体力づくりについて、基本的な生活習慣の確立や運動習慣の定着は、学校生活を送る上で土台になる部分であり、健康・体力が備わってこそ、学力向上が促進される。健康・体力づくりを核として取組を進めてほしい。
- ・安全教育について、地震・火災避難訓練や防犯教室などを計画的に行ったり、防災教育出前授業を実施したり、具体的な取組が実践できており、十分効果が表れていると思う。
- ・情報モラル教育については、保護者への啓発が重要である。低学年のうちから情報モラル教育の計画的・継続的な取組が必要である。出前授業を積極的に取り入れてほしい。
- ・家庭への啓発は、どの取組においても必要不可欠である。家庭教育力が低下しているところがあるが、学校の働きかけなくして改善は望めない。学校だけでなく地域や関係機関との連携を図り、協力を得ながら取組を進めてほしい。

5 総合評価

ポイントが増加した項目が全体的に増えた。教職員で常に共通理解を図り、課題・問題があれば迅速かつ柔軟に対応し、それぞれの教職員の強みを活かした教育活動が実践され、学校の活性化が図られた結果であると考えている。保護者アンケートから「読書習慣の確立」について、「お子さんは、進んで読書していますか」に昨年度は 51 %の保護者の人が「とてもそう思う」「そう思う」と回答していたが、今年度は 83 %に大幅にポイントが増えた。本年度から日課表を見直し、「朝の読書タイム」を設定し、児童の読書習慣を定着させることで、家庭での読書活動の活性化につながったと考える。読書活動の充実を図った成果が表れ、継続できているが、マンネリ化を防ぎ、児童の意欲喚起につながる取組を工夫し実践していきたい。

健康・体力づくりの「基本的な生活習慣の確立」、「運動習慣の定着」は、家庭の協力も欠かせない。校内研修を中心に教職員の指導力向上を図るとともに、家庭への効果的な啓発方法についてもさらに研究を深めていきたい。学校だけでなく地域や関係機関との連携を図り、協力を得ながら取組を進めていく。